

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第77回放送の概要 (2014年3月22日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なか (中嶋邦弘)

## コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)  
アコ (三木文子)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)  
いっちゃん (一ノ瀬悟)

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) 安心・信頼・確実を会社のモットーとして、給油、洗車、車検、整備など、マイカー、社用車の安全に、資格を持った整備士が目目を光らせております。また車のリース、新車・中古車の販売、生保、クレジット等も取り扱い、車両全てのオーソリティとして、お客様に多大なる信用を得ております。本日は、神戸・明石で十数店舗のガソリンスタンドを展開している、三和油業(株)様、電話078-923-0013の御協力をいただきました。

## 1. オープニング

来週は気温も上がり桜の蕾が一気に膨らむでしょう。神戸の開花予想は3月27日、満開は4月3日です。

## 2. ゲストコーナー(1): ドレスショップ越後屋社長 池田ゆう子さん

本日のゲスト池田ゆう子さんは兵庫高校卒業で、同窓会武揚会の64期生(64陽会)です。このため、今日は同期生の小室こゆみさん、小林正美さん、岡野雅昭さんがサポーターとして参加されています。

池田さんは、平野小学校、湊中学卒、兵庫高校、神戸女学院卒業です。サポーターを含め平野出身者が多いので、平野の思い出を伺います。池田さんは結婚するまで平野に住んでおり、祇園神社、祥福寺、雪の御所公園など子どもにとっていい遊び場所が多く、暗くなるまで遊び、親に叱られた思い出がある。幼稚園から高校まで一緒に妹尾さんは、池田さんと幼い頃は良く遊んだ。楠幼稚園はモデル幼稚園として有名であった。さくらさんが子供の頃は、祇園神社の中に幼稚園があった。池田さんは昇天幼稚園、小林さんは浄光寺幼稚園であった。岡野さんは家は鈴蘭台であったが、気になる生徒が平野だったので一緒に祇園神社に



祇園神社境内の楠幼稚園 (1949年)

行った事がある。

小林さんのお母さんは、戦後すぐに平野で化粧品店をしていた。平清盛の話で平野がにぎわった時、商業施設の開発があり、店の土地から遺跡が発掘され、半年以上工事が中断した時店も辞めてしまった。平野は商店街と市場が一体となっており、友達は市場関係者の子供で、小学校の通学は登校グループが決められており、6年生が班長となり、下級生を引き連れて、交通量の多い平野交差点を渡って登校していた。登校コースは学校が厳しく設定していた。

昭和43年に廃止された市電は、平野で折り返し運転をしていた。池田さんの世代は高校への通学時は、バスに変わっていた。市電の10系統は石屋川行き、11系統は兵庫駅行きで、山陽電車が地上を走っていた。池田さんの越後屋さんは、小林化粧品店の少し東寄りにあったが、昭和52年頃田村薬局南側のビルに転居した。そのビルは現在も衣装の準備、手入れの場所として使っている。小林さんは、市場の通りは人が多く狭いため、足をよく踏まれたことを覚えている。市場に置かれている商品は、肉の八百丑もあり、質のよい物が多かった。



神戸市電

池田さんは小さいころから、家業（貸衣装）を手伝ってきた。小学6年生の時、長田の会館の控室に衣装を届けたりした。その時はお駄賃をもらえたのがうれしかった。「越後屋」の店名は、越後の国の出身でもなく、水戸黄門関連でもなく、お母さんが、後から出来た店でも先を越せるような店でありたいという願いを込めて名付けた。最近のプライダルショップは横文字で長い屋号が多いが、越後屋は短いので、逆にインパクトが大きいのでよいと思っている。

高校大学時代の土日は、衣装の展示会などでマネキンにドレスを着せたりする手伝いをしていた。池田さんは体格がいいので、着せるのに重宝がられた。兵庫高校では部活としては、森田健作さんに憧れ1年半ほど剣道部に入っていた。学生時代はいい友達に恵まれ、友達と過ごす時間が楽しかった。高校の帰りは、湊川公園駅近くの喫茶店マーガレットによく立ち寄りしていた。岡野さんはその近くのポピールに行っていた。

### 3. ミュージック：時代（中島みゆき作詞、作曲）歌：ハイリー

この曲は1975年10月のヤマハ音楽振興会主催の『第10回ポピュラーソングコンテストつま恋本選会』、及び同年の『第6回世界歌謡祭』にてグランプリを受賞しました。歌っているのは、ニュージーランド出身のハイリーさんの英語版です。

### 4. ゲストコーナー(2)：ドレスショップ越後屋社長 池田ゆう子さん

越後屋と言う名前が得した事は、覚えられやすい事、損した事はTVのイメージが強すぎて、悪徳というイメージ受けているのではないかと思う。店は三宮本通りにあるが、前を歩いている人が看板を見て「越後屋やで・・・」と言うのを聞いて損しているような気分になった。

会社は、お母さんが昭和32年8月に創業。昔、貸衣装屋は夏場は結婚式や成人式などがないため、資金繰りが苦しくなる。先代の越後屋を経営していた人にお母さんと叔母さんがお金を貸していたことから、債権者会議で誰か継がないかと言われ手を挙げたことから店を始めた。3年前にお母さんが会長で池田さんが社長になった。従業員は20人程で、社長業としては、ゼクシーなどのプライダル雑誌の原稿やHPなど打ち合わせ、クライアント先への訪問などが多い。



店舗は三宮店の他、舞子ピラ店、成田店、手入れ場がある。成田店は、お父さんがダイエーの中内さんと大学が同級で公認会計士をしていたので、ダイエーが上場する時に仕事をした繋がりから、ダイエーのホテル部門である成田で仕事をするようになった。成田のホテルは今は老人用施設になったので、イオンショッピングセンターで店を開いている。

越後屋の仕事内容は、メインはブライダルでその他卒業式、成人式、七五三などの貸し出しをしている。しかし七五三は今は子供写真館に行く人が多い。お客さんはゼクシーなどに掲載していることから、沖縄、宮崎、岡山、京都、滋賀他、全国に衣装を送っている。息子さんが昨年から店の手伝いを始めており、「華恋工房 KAREN」と言う名前で、ネット上のドレスショップを開いている。

お客さんが店に来られると、商品を見て試着していただくが、挙式までには何度も来店される。挙式2週間前までは交換可能で、多い人は毎週来店される。結婚式の形態が今は大きく変わっているので、紅葉の季節は特にきれいな相楽園で、打ち掛けを着て前撮りされる方もいる。店には今は二人で来ることが多い。少子化傾向、金銭的な余裕がないので、結婚式をしない「無婚」が増えてきている。結婚式はしないが写真のみという人もいる。結婚式は感動を与え、打ち掛けは日本の文化でもあるので守っていききたい。鬘(かつら)がいやという人もいるが、最近は洋髪でする人もいるので経験してほしい。最近の結婚式はチャペル式か人前式で、打ち掛けでする人は少ないが、打ち掛けの写真だけ撮る人はいる。

最近の結婚式は人数が少なくなっている。我々の世代は、70~100名が普通であったが、今は40~60名である。しかし100%友達を呼んで2次会が行われる。また仲人を立てないのが今のやり方になっている。少子化で結婚する人が減っており、結婚する人は新しい式場に目移っていくので、業界としては大変な時代になっている。神戸は貸衣装店が減ってきており、店の形態が変わってきている。昔の銭湯がなくなってスーパー銭湯に変わり、小売店がスーパーに変わっているのと同様の状況になってきている。





## 5. こぼれた話、こぼれなかった話：平野の歴史（兵庫高校区）

- (1) 平安時代に編纂された当時の日本国内の地理事典「和名類聚抄」によれば、奈良・平安時代にかけて、摂津国八田部郡宇治郷（やたべぐんうじのごおり）とあり、平野地区もここに含まれていました。
- (2) 古来、山裾の高台にあって生活環境は良い地域なので、昔から集落や田畑、狩場があったようです。勿論、弥生時代の遺構も見つかっています。古文書、風土記や日本書記などにこの地域のことが登場してきます（夢野など）。ですから、祇園神社が貞観の頃（9世紀）に創建されています。
- (3) その後、兎原郡（うばらぐん）宇治となって、源平時代の福原遷都で、御所や貴族邸宅が造成されました。最近の発掘調査によって、湊山小学校のところに雪御所遺跡（雪御所町）、祇園神社南の坂の途中で祇園遺跡（上祇園町・賽の神松のあった辺り、平野商店街の東地区）、神大附属病院や平頼盛の山荘跡と伝わる荒田八幡神社などの楠・荒田町遺跡にて、平安時代後期、福原京の時代の遺構が確認されています。その頃には、平清盛が愛した温泉「湊川上温泉」が、今の湊山温泉の辺りにありました。
- (4) ずっと飛んで、17世紀の江戸時代になると、「奥平野村」とあります。東灘の方に平野村があったため、従前から区別して使われていた奥平野としたようです。当時の領主は、幕府直轄領と、旗本の畠山家と片桐家と3家いました。ばらばらに管理されていたんです。当時から残された地図によると、特に片桐家の所領は地区内に飛び飛びにありました。ややこしいので、三家仲良く村と協力してやっていたようです。村の北東にあたる現在「平野の一本松」（矢部町）と呼ばれるところに、村民に通達する高札場「御三領御制札場」がありました。
- (5) 当時の地図では、集落の中にあつた地蔵院や東福寺は現在のところのようですが、祇園神社に隣接してあつた「薬師堂」が現在ではありません。また、奥平野村の守り神の五之宮神社はもっと山中に書かれています。それと地蔵院に北に接していた17世紀後半創建の祥福寺が明治5年に五宮神社の近くに移ってきました。
- (6) 村の東を流れていた宇治川は当時「再度谷川」、西の楠谷川は「東谷川井手」。西側の天王谷川は「天王谷大井手」、石井川は同じです。東谷川の上流、山の中に、中后池（ちゅうごいけ）、ねりま

つ池、菩提池、仏坂池、新池があって、坂本村山裾あたりに東池があり、天王谷川筋、今の有馬街道に大きな「御他領池」というのがあって、実際は二つに分かれて、東側が「十郎池」、西側が「五郎池」と呼ばれていました。多分、有馬街道が真中を通っていたんでしょう。いずれも明治29、30年頃に埋め立てられ、十郎池は少年鑑別所に、五郎池は神戸家庭裁判所と、昭和23年には兵庫中学校から分離独立した湊中学校になりました。

(7) 明治中頃の地図を見ても、現在の祇園神社周辺及び五宮町、梅元町、矢部町辺りに奥平野村の集落が確認できます。それ以外の現在の上・下祇園町、上・下三条町、平野交差点周辺、平野商店街の辺りから、神田町、馬場町、荒田町など十郎池、五郎池、大倉山周辺は田圃になっています。

(8) 以後、街はどんどん開発されて行って、神戸市電も大正2年(1913年)に平野にやってきましたが、昭和43年(1968年)には廃止された辺りから、商業の環境が地元中心から大型店化、都市集中化によって、往年の賑わいを知っているものにとって、寂しいこの頃ですね。

## 6. 来週のゲスト

来週第5週も放送があります。ゲストは、NPO法人@オーティズムの佐伯比呂美さん、雲井りつ子さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>